

第2期 大鰐町総合戦略 効果検証結果

基本 目標	基本的な方向性	数値目標	(1)		施策	(2)		主な取組	(4)		(5)		(6)		
			数値目標 実績	重要業績評価指標 (KPI)		重要業績評価指標 実績(KPI)	評価項目		これまでの施策展開の成果・効果検証						
							R4末時点 での評価		R5以降の 方向性	町検証	総合戦略推進協議会意見等				
1 大鰐町における安定した雇用を支える“おしごと”の創出	基幹産業である農業の就業環境の充実を図るとともに、伝統産業の後継者育成による新たな就業の場の創出など、産業活性化による雇用の拡大を図っていく。	○認定農業者数 H30 126人 ↓ R7 現状維持	○認定農業者数 R4 137人	① 地域の産業を活かしたしごとづくり	○新規就農者数 H30 29人 ↓ R7 34人	○新規就農者数 R4 1人 累計 42人	○6次産業化支援 ・6次産業化支援対策事業	△	拡充	新たに6次産業化支援対策事業の展開を図るため、令和5年度からの山村活性化対策事業の採択に向け申請した。	規格品以外の廃棄される農作物を活用し、収益にできるような支援をしていたきたい。	農業者への支援を継続し、経営の安定及び所得拡大等を図るため、実質化された人・農地プランの推進により、農地の集積・集約について、地域の意見を踏まえ地域計画の策定を進め、将来のビジョンに基づき認定農業者及び新規就農者の拡大を図る。 また、全国的に問題となっている耕作放棄地の増加については、農地情報の収集に努め、優良農地の確保・継承に取り組むほか、耕作放棄地を活用した最適土地利用対策の推進を図る。			
		○民営事業所従業者数 H28 2,171人 ↓ R7 現状維持	○民営事業所従業者数 R4 未公表		○事業所数 H30 347社 ↓ R7 現状維持	○事業所数 R4 未公表	○農業就業者への支援 ・農業人材強化総合支援事業 ・農地中間管理事業 ・人・農地プランの実質化	△ △ △	継続 継続 継続				○農業生産活動の支援 ・多面的機能支払交付金事業 ・中山間地域等直接支払交付金事業	○ ○	継続 継続
				② 働く場づくり	○誘致企業数 H30 7社 ↓ R7 10社	○誘致企業数 R4 0社 累計 10社	○企業誘致 ・企業誘致推進事業	○	継続	信用保証料を全額補助(町7割、県3割)する「選ばれる青森」への挑戦資金事業により、中小企業者の創業を支援した。	起業・創業支援制度について、情報発信を強化する必要がある。	起業・創業に対する支援内容をさらに充実させ、町内において起業しやすい環境づくりに努める。起業時の支援だけでなく、起業後においても安定した事業が継続できるよう支援を強化する。併せて、情報発信の強化に取り組む。			
					○起業支援を受けて起業した件数 H30 1件 ↓ R7 5件	○起業支援を受けて起業した件数 R4 8件 累計 11件	○起業・創業支援 ・「選ばれる青森」への挑戦資金事業 ・空き店舗等活用創業支援事業	○ ○	継続 継続	町独自の支援として、「空き店舗等活用創業支援事業」により、新規に事業を開始する方を支援するとともに、空き店舗の解消を図った。		学生に対し継続してPR活動を実施することにより、若者の転出を防止、U・Jターンの促進を図る。			
							○地元就職支援 ・移住支援事業	○	継続	弘前圏域の連携事業により、地元の高校・大学を訪問し、学生向けに講義を行い、圏域の魅力を伝えることで、地元就職を促す取組みを行った。					

※評価項目について

【R4末時点での評価】 各事業に対するR4末時点における評価 ◎: 目標値以上または十分に達成 ○: 目標値と同等または達成 △: 目標値未満または達成せず ×: 進捗なし・事業終了	【R5以降の方向性】 各事業に対するR5以降の方向性 拡充: 取組内容の深化・発展を図る 継続: 取組を前年度と変わらない内容で継続する 縮小: 取組内容を縮小し、継続する 見直し: 取組内容の見直しを図る 廃止: 取組を廃止する
--	---

基本目標	基本的な方向性	数値目標	数値目標実績	施策	(1)		(2)		(3)		(4)		(5)		(6)
					重要業績評価指標(KPI)	重要業績評価指標実績(KPI)	主な取組	評価項目		これまでの施策展開の成果・効果検証					
								R4末時点での評価	R5以降の方向性	町検証	総合戦略推進協議会意見等	今後の取組			
2 結婚・出産・子育てなど“若い世代の希望”を実現	<p>出会い・結婚・出産・子育てなどの切れ目のない子育て環境の充実に努め、若い世代への支援を強化するとともに、未来を担う子ども達の「生きる力」を育成し、子ども達が将来に夢と希望を持って成長できる環境づくりに取り組む。</p>	<p>○合計特殊出生率 H30 0.93 ↓ R7 現状より増加</p> <p>※合計特殊出生率とは15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの</p>	<p>○合計特殊出生率 R4 未公表</p>	①	<p>○婚活イベントへの圏域参加者数 H30 103人 ↓ R7 150人</p>	<p>○婚活イベントへの圏域参加者数 R4 68人</p>	<p>○出会いの場創出・結婚祝福支援 ・婚活支援事業</p> <p>・結婚新生活支援事業</p>	○	継続	<p>圏域市町村と連携し、婚活イベントを開催。イベント内容の充実と多様化を図ったことにより、婚活イベント参加者数が前年度より増加した。また、新婚世帯に対し、住宅費や引越費用を助成することにより、結婚に伴う新生活を支援しているものの、申請件数の実績がなかったため、要件の緩和・見直しが必要である。</p>	<p>婚活イベント等の情報発信を強化する必要がある。</p>	<p>婚活イベントについて、参加率の高いイベント内容の傾向を把握することにより、内容の充実を図り、参加者の満足度向上と成婚率アップを目指す。併せて情報発信の強化に取り組む。結婚新生活支援事業については、要件を緩和することにより、申請数の増加を図る。</p>			
				②	<p>○出生数 H30 30人 ↓ R7 現状より増加</p>	<p>○出生数 R4 24人</p>	<p>○安心して出産できるまちづくり ・妊婦健康診査事業 ・妊婦歯科健康診査 ・不妊治療費給付事業 ・風しんワクチン接種支援事業 ・ハイリスク妊産婦アクセス支援事業 ・伴走型相談支援及び出産・子育て応援給付金の一体的実施事業</p> <p>○子育て支援 ・大勢の元気！もりもり子育て応援事業 ・子ども医療費給付事業 ・ひとり親家庭等医療費給付事業 ・保育料軽減事業 ・予防接種推進事業 ・遺児入学祝金等給付事業 ・就学援助費 ・インフルエンザ予防接種支援事業 ・保育事業 ・放課後保育事業</p> <p>○未来の人財づくり ・特別支援教育支援事業 ・生きる力育成事業 ・児童通学安全対策事業</p>	○ ○ ○ ○ ○	継続 継続 継続 継続 継続	<p>疾病予防のための予防接種事業、経済的支援となる給付金や医療費の助成対象拡大など、妊娠期から出産育児まで切れ目のない支援の充実が図られているが、さらなる支援の充実を図っていく。</p> <p>出産のお祝い品として、町の産品を贈呈する事業を展開し、対象の家庭はもとより、生産者からも好評を得た。</p> <p>教育支援において、さまざまな取組みを実施したことにより、子ども達のふるさとへの愛着を育む機会や、学習・スポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等に繋がった。</p> <p>児童の通学路安全対策について、通学指導員の配置や県・町担当部局と連携し通学路の危険箇所の改善に努めることにより、児童の安全な登下校に繋がった。</p>	<p>さまざまな子育て対策に取り組んでいるが、周辺市町村と類似の取組みである。町独自の事業を実施し、町で出産及び子育てをしたいと思えるよう取り組んでいただきたい。</p>	<p>妊娠期から出産・子育てまで、切れ目なく、かつ多種多様な支援の充実について、今後も取組みを継続しつつも、新生児聴覚検査費用助成やおたふくかぜ予防接種費用の助成、インフルエンザ予防接種等の対象年齢の拡大など、さらなる支援の充実を図っていく。</p>			

※評価項目について	
【R4末時点での評価】 各事業に対するR4末時点における評価 ◎：目標値以上または十分に達成 ○：目標値と同等または達成 △：目標値未満または達成せず ×：進捗なし・事業終了	【R5以降の方向性】 各事業に対するR5以降の方向性 拡充：取組内容の深化・発展を図る 継続：取組を前年度と変わらない内容で継続する 縮小：取組内容を縮小し、継続する 見直し：取組内容の見直しを図る 廃止：取組を廃止する

基本目標	基本的な方向性	数値目標	(1)		施策	(2)		(3)	(4)		(5)		(6)										
			数値目標実績	数値目標実績		重要業績評価指標 (KPI)	重要業績評価指標実績 (KPI)		主な取組	評価項目		これまでの施策展開の成果・効果検証											
										R4末時点での評価	R5以降の方向性	町検証		総合戦略推進協議会意見等									
3 大野町の魅力高め“わがふるさと”の創出	誰もが住み慣れた地域で、みんなで支え合い、心身ともに健康で自分らしく安心して暮らすことができる「地域共生社会」を推進するとともに、ふるさとと魅力アップやふるさとと教育を拡充し、定住性やふるさとへの回帰性を高めていく。	○町平均寿命の全国との格差 H27 男2.5歳 (町78.3歳、国80.8歳) 女1.3歳 (町85.7歳、国87.0歳)  ↓ R7 男女ともに縮小	○町平均寿命の全国との格差 R4 未公表	① 安全・安心なふるさとづくり	○特定健診受診率 H30 46.0% ↓ R7 60%	○特定健診受診率 R4 46.9%	○地域共生社会の推進 ・コミュニティ活動支援事業  ○平均寿命を1歳延ばそうプロジェクト ・健康イベント事業 ・健診・がん検診事業の拡充 ・健康の日の推進等 ・高齢者予防接種推進事業  ○雪対策 ・流融雪溝整備  ○安全・安心な福祉対策 ・自殺予防対策事業 ・見守り活動推進事業 ・福祉安心電話サービス事業 ・認知症施策推進事業  ○安全・安心な医療体制の整備 ・新診療所整備事業 ・医療確保対策事業  ○安全・安心な防災対策 ・防災対策事業  ○公共交通の活性化 ・公共交通活性化事業	○各種がん検診受診率 R4 胃がん 23.3% 大腸がん 25.1% 肺がん 20.9% 子宮頸がん 36.7% 乳がん 34.6%	○各種がん検診受診率 H30 胃がん 23.1% 大腸がん 23.4% 肺がん 20.3% 子宮頸がん 31.0% 乳がん 30.9% ↓ R7 胃がん 40% 大腸がん 40% 肺がん 40% 子宮頸がん 50% 乳がん 50%	○デマンドバス新規会員数 H30 23人 ↓ R7 25人	○デマンドバス新規会員数 R4 24人	○流融雪溝の整備延長 H30 10,077.7m ↓ R7 12,900m	○流融雪溝の整備延長 R4 192.7m 累計 11,192.8m	○ふるさと納税者数 H30 913人 ↓ R7 2,000人	○ふるさと納税者数 R4 1,122人	○ふるさと魅力アップ ・魅力発信事業 ・スキー育成環境整備事業 ・ふるさと納税推進事業 ・文化団体等育成支援事業	○ふるさとと教育 ・青少年社会参加活動事業	○ふるさとと帰郷支援 ・首都圏等交流事業	○	○	健康づくりは、健康長寿宣言に基づいて多様な事業により推進しており、今後も継続を要するものであるため、健(検)診未受診者や健康づくりに無関心な対象へのアプローチの強化、健(検)診精密検査未受診者対策の強化を図っていく必要がある。 また、住民の安全安心な生活を維持するため、関係機関のネットワークや、福祉安心電話等機器を活用した緊急時の把握など、見守り体制の整備がされている。  デマンドバスの新規会員数は前年度より増加したが、デマンドバスの更なるネットワークの確保及び充実のため、町民や宿泊事業者へのアンケート調査を行い、実態に即した地域公共交通計画の策定に向けて取り組んだ。	デマンドバスについて、停留所の見直しやダイヤ改正などを実施することにより、住民のニーズに沿った運行をしていきたい。	各種健(検)診のインターネット予約開始による若者の健診受診率の向上を図るとともに、健康鑑定団や健康イベントの開催による、健康意識の啓蒙啓発を図る。  運行ダイヤの見直し、小中学生に向けた公共交通教育の充実化及び新たな予約方法・支払方法の導入を検討するなど、計画の策定及び実践に取り組む。
					② ふるさと魅力アップ	○町イベントに参画した子どもの数 H30 200人 ↓ R7 300人		○町イベントに参画した子どもの数 R4 166人	○ふるさとと納税者数 H30 913人 ↓ R7 2,000人	○ふるさとと納税者数 R4 1,122人	○ふるさとと魅力アップ ・魅力発信事業 ・スキー育成環境整備事業 ・ふるさと納税推進事業 ・文化団体等育成支援事業	○ふるさとと教育 ・青少年社会参加活動事業	○ふるさとと帰郷支援 ・首都圏等交流事業	○	○	ふるさと納税について、納税者数は減少したが、納税額が増加した。今後も引き続き継続的な返礼品の更新を図るとともに、町の魅力について情報発信を強化し、KPIの達成を目指す。  スキー育成環境整備事業について、町内在住の小・中学生に対し、スキー場のリフト引換券を配布することにより、スキーに親しむ環境を整え、児童生徒のスキー振興を図った。 青少年社会参加活動事業について、未来を担う子ども達のふるさと教育の一貫として、元氣隊キッズに対する交通費等を補助金として交付し、支援を行った。	ふるさと納税推進事業について、今後の取組みとして「体験もの」を返礼品として取り扱うことにより、町への誘客にも繋がるのではないかと。	ふるさと納税者数のKPI達成のため、「体験もの」や「サービス」を返礼品として取り扱うなど、返礼品の多様化を図る。また、普及率の高いSNSアプリを活用し情報発信するなど、ふるさと納税情報も含め、町全体の情報発信の強化を図る。  子ども達のふるさとを想う活動等に対し、さらなる支援を図ることにより、町の魅力を体験出来る機会を増やし、町の良さについて理解を深めてもらう。					

※評価項目について

<p>【R4末時点での評価】</p> <p>各事業に対するR4末時点における評価</p> <p>◎: 目標値以上または十分に達成</p> <p>○: 目標値と同程度または達成</p> <p>△: 目標値未満または達成せず</p> <p>×: 進捗なし・事業終了</p>	<p>【R5以降の方向性】</p> <p>各事業に対するR5以降の方向性</p> <p>拡充: 取組内容の深化・発展を図る</p> <p>継続: 取組を前年度と変わらない内容で継続する</p> <p>縮小: 取組内容を縮小し、継続する</p> <p>見直し: 取組内容の見直しを図る</p> <p>廃止: 取組を廃止する</p>
--	--

基本 目標	基本的な方向性	数値目標	(1)		(2)		主な取組	(4)		(5)		(6)
			数値目標 実績	施策	重要業績評価指標 (KPI)	重要業績評価指標 実績(KPI)		評価項目		これまでの施策展開の成果・効果検証		
								R4末時点 での評価	R5以降の 方向性	町検証	総合戦略推進協議会意見等	
4 新しいひとの 流れによる“にぎわい”の創出	若者が住みよい住環境や、Uターンを促進していくとともに、町の各種資源を最大限活用し、官民協働によるまちづくりの推進や国際交流を推進することで交流人口の拡大を図り、地域への波及効果を高めていく。	○純移動数(転入-転出) H30 転出超過81人 ↓ R7 現状より減少	① 住みやすいわがまちづくり	○移住相談件数 H30 3件 ↓ R7 10件	○移住相談件数 R4 29件	○Uターン支援 ・移住促進事業 ・移住・子育て住宅支援事業 ・おためし居住体験事業	◎ ○ ○	継続 拡充 継続	首都圏で開催される移住セミナー等に 参加し、町の魅力や移住後の暮らしをPR。 積極的な働きかけにより、移住相談 件数が増加した。	現在、スキー場にはWi-Fi環境が整備されてい ないが、今後、国民スポーツ 大会も控えていることから 整備すべきではないか。	首都圏での移住イベントに参加することにより、 移住相談件数を増やし、移住定住促進に 繋げる。また、移住者にとって必要な情報を整 備をし、移住後のサポート体制の充実を図る。	
		○宿泊客数 R2 25,228人 ↓ R7 31,000人		○純移動数 (転入-転出) R4 転出超過57人	○空き家・空き地バンク 登録件数 H30 0件 ↓ R7 10件							○空き家・空き地バンク 登録件数 R4 4件 累計 12件
			② にぎわいづくり	○住民参加型まちづくり 事業申請件数 H30 0件 ↓ R7 10件	○住民参加型まちづくり 事業申請件数 R4 7件	○資源・人材を活かしたにぎわいづくり ・公園整備・運営事業 ・各種イベント活性化事業 ・住民参加型まちづくり事業	○ ○ ○	継続 継続 見直し	住民参加型まちづくり事業により、町内 団体が主体的に取り組む活動を支援した。	住民参加型まちづくり事 業について、現在、採択と なった団体同士の繋がりが ない。繋がりがあれば、 団体間でお互いに本事業 で購入した備品を貸借で きるなど費用的にも効率 化を図るため、団体間 の協力体制を構築してい ければいいのではない か。	住民参加型まちづくり事業補助金の申請にあ たり、審査会におけるプレゼンテーションを必 要としていたが、書類申請のみ(プレゼンテー ション不要)の部門を設け、誰でも申請できる 環境を整えることにより、KPI達成を目指す。	
		○国内宿泊客数 R2 24,248人 ↓ R7 30,900人		○国内宿泊客数 R4 62,384人	○街なか商店活性化支援 ・まちあるき推進事業							◎

※評価項目について	
【R4末時点での評価】 各事業に対するR4末時点における評価 ◎: 目標値以上または十分に達成 ○: 目標値と同等または達成 △: 目標値未満または達成せず ×: 進捗なし・事業終了	【R5以降の方向性】 各事業に対するR5以降の方向性 拡充: 取組内容の深化・発展を図る 継続: 取組を前年度と変わらない内容で継続する 縮小: 取組内容を縮小し、継続する 見直し: 取組内容の見直しを図る 廃止: 取組を廃止する